

The Arts of Living Well

Heart

Head

リハビリテーション学部

作業療法学科のご紹介

Department of Occupational Therapy

Hands

私たちは、他の医療・福祉系大学にはない作業療法の本質に迫る教育を実現するために、「The Arts of Living Well」(工夫を凝らして、よりよく生きる)をキー・コンセプトに、現代人が見失いがちな生きる意味とくらしのあり方を科学し、「したい」をカタチにできる、本物の作業療法を追求します。

Home



命と向き合う あなたと向き合う

岐阜保健大学

Gifu University of Health Sciences

わたしたちは、何のために生きるのか
どのように生きているのか
「老い」や「病い」と、どう向き合うべきか
いざとなったとき助けてくれる人はいるのか
困っているひとに対して、なにができるのか

The Arts of Living Well

工夫を凝らして、よりよく生きる

現代の社会システムは、
安心・安全・快適な生活という
恩恵をもたらしました。

一方、人々は“つながり”をもたない
バラバラな存在になりました。
多くの人々が「生きづらさ」を感じ、
本当の幸せを見失いかけています。

“本当の幸せ”とは、
「暮らし」そのものです。

暮らしとは、ひと・地域・社会・自然との
よい“つながり”の中で、したいと思うことをして、
そこに生きがいを感じながら存在することです。

これは、“Arts of living”
によって成り立っています。

生きがい喪失、精神疾患、生きづらさ…
その原因は、人生からつながりや創意工夫が
欠落したことにあります。

私たちは、医療・福祉領域で希薄となった
“The Arts of Living Well”
(工夫を凝らして、よりよく生きる)
を体現できる作業療法士の育成を目指して
教育に取り組めます。

作業療法ってなんだろう？



生きづらさを抱えた人々の生き方を尊重し、
よりよい暮らしを再構築することで、
生きる意味を創発するリハビリテーション！

》》 Doing Occupation

キーワード： 暮らし 作業の意味 つながり

医者はいくすりや手術で治療します。

一方の作業療法士(OT)は、「作業すること」で治療します。つまり、作業とは暮らしを治すための「くすり」と言い換えることができます。

作業にはその人の価値観、意思、人生経験が結晶しており、暮らしは「作業すること」の連続で成り立っています。そこに焦点を当てる作業療法では、病気や障害の治療と、その先にあるよりよい暮らし、つまり「The Arts of Living Well」の実現を目指しています。

》》 OTは「暮らし」の伴奏者

暮らしは、音楽の曲に例えることができます。人の身体は、いつも一定の状態を保っているわけではありません。曲の流れに沿って刻々と変化し、それに伴って暮らしも流動的に変化しています。

しかし、人は病気になったり老化することでこころとからだのバランスが崩れ、暮らしが壊れてしまいます。その理由は「作業すること」が難しくなるからです。そんなとき、こころとからだの調和を創り出し、それを継続するための核となる行為がDoing Occupation（作業すること）です。

OTは、「作業」という専門的な視点を携えて、暮らしの主人公(対象者)の一番近くで、曲(暮らし)の伴奏者となって、Doing Occupationを手助けしています。

》》 活躍の場

OTは、対象となる人々の意欲と行動を引き出すことで、こころとからだ、自己と社会のよりよい「つながり」を創り出すプロフェッショナルです。

OTには、からだ・こころの構造から応用的な社会生活までの幅広い守備範囲と、回復をもたらす実践理論があります。

そのノウハウを医療の他にも保健、福祉、教育、職業などのフィールドで発揮するのと同時に、OT自身を治療資源として活用する(Use of self)ことで、人々の「The Arts of Living Well」を支えています。

リンク:OTについてさらに知りたい方はCtrl+クリック

- [“No. 4 Best Health Care Job / No. 19 Best Job of 2024”](#) by U.S. News & World Report
- [“作業療法士ってどんな仕事？”](#) by 一般社団法人 日本作業療法士協会



About Us

Mission

生きる意味とくらしの科学を通して、自らの“Living well”と、クライアント(作業療法対象者)の“Living well”の好循環を生み出せる、しなやかさと強さをもったリハビリテーションの専門家を育成します。

Vision

学生と教員が対話・協働することで、「The Arts of Living well」を体現できる教育を創ります。

Mission & Visionに込めたおもい

本学科では、教育(Education)の語源とされるEducare(エデュカーレ)、つまり、その人の中にあるものを「引き出す」という考えを重視しています。なぜなら、クライアントのくらしの再構築を援助するためには、OT(学生)自身も「The Arts of Living well」を体現し、職業人としての誇りを高める必要があるからです。

つまり、「クライアントの援助」というOTの役割は、OT(学生)にとっての「作業」であり、クライアントの援助がうまくできるということは、OT(学生)自身の能力、価値観、意思、経験などが引き出された、とても良好な状態と考えられます。

その状態を実現するために、教員は学生のパートナーとして、よい“つながり”(リレーションシップ)を維持し、考えること、感じること、創り出すことの楽しさを示します。その過程では、対話を通して学生にインスピレーションを与え、可能性と素質を引き出し、結果を味わうことができる環境を整えます。そうすることで、学生たちのLiving well(よりよく生きる)な毎日に寄り添いたいと願っています。



Education

教育の特徴

01 | 4年制大学で学ぶメリット

本学科は、OT養成校としては岐阜県内唯一の4年制大学です。

OT先進国のアメリカでは大学院まで進学する必要があります。そして近年、本邦の作業療法業界でも、4年制大学教育への移行が強く推奨されるようになりました。これはOTの専門性と役割の重要性を反映しているためであり、3年制教育(専門学校や短大等)を続けることへの警鐘とも考えられます。つまり、4年制大学への移行は、時代の流れにおいて必然と考えられます。

今後もOTの有資格者は増えます。また資格取得後も最新の知見を身に付け、専門的な能力を磨く必要があります。

キャリアアップ(昇進等)、スキルアップ、ライフステージの変化(結婚、育児等)に伴う転職・復職・進学などを成功させて、業界を軽やかに生き抜くには、学士(大卒)をもった希少なOTという事実が、あなたを必ず後押ししてくれます。そして、巡り合えた職場でも愛され、長く活躍できるでしょう。

02 | 「知ること」×「感じること」

わたしたちは、教育的な関わりの中で、「知ること」と「感じる」ことを、学習の両輪として位置付けています。日々の出来事から得られる一つ一つの知識(知ること)が種だとするなら、感じること(感受性)はその種を育てる土です。

人は新たな知識に触れて感情が動いたとき、「もっと知りたい」「もっとできるようになりたい」と思います。そのようにして創発された知識は、Narrative based education(対話する教育)によって「知恵」へと成長し、やがて作業療法に応用できるようになります。

そのために、わたしたちは、いきなり行動したり、頭で考える前に、まずは自分の「くらし」や「いのち」に関心を寄せたり、作業療法に触れて親しむ体験などを通して、豊かな感受性を育てるところから学習をスタートしています。



03 | 生きる知恵を育む

作業療法学科の教育は、次の方程式からなっています。

Education = Heart + Head + Hands + Home

Heart | 心

互いを思いやり、慈しみ、共感するところを重視します。

他者と喜びを分かちあう人は、治療の場面でも喜びを感じるでしょう。

その経験からさらに良質なセラピーを追求できるマインドが引き出されます。

Head | 専門知識

臨床上の問題について学生と教員が共に学び、探求します。

その経験を共有し、結果を味わうことで、知識を使うという経験を積みます。

学びと探求を繰り返すことで、OTに必要な知識の定着を図ります。

Education

手やからだを使ってアウトプットし、自身の能力を外へと開くことで新たな技能を創り出します。

この経験によって、平坦だった知識 = Headが、社会を生き抜くための「知恵」へと深化します。

Hands | 専門技能

作業療法がくらしの一部となり、仲間とのつながりを感じることで、同じ世界を共有し、連帯する感覚を得ます。

そして、困難場面でも手を差し伸べ合える仲間がいて、戻ってくるHomeがあることを理解できます。

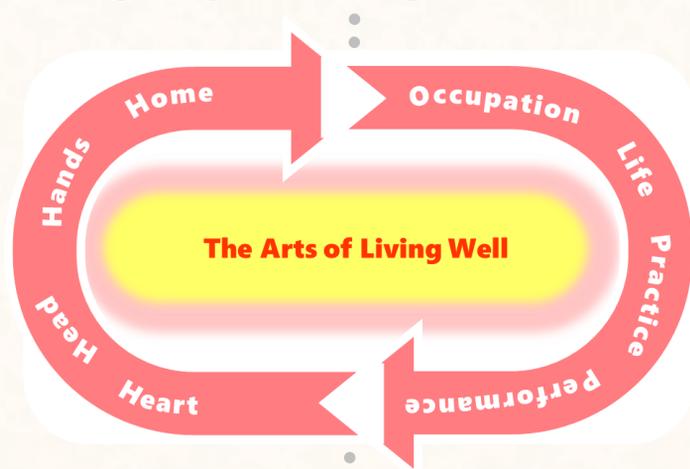
Home | つながり

とりわけ、Homeの感覚は、現代の地域社会や公教育、医療・福祉の教育から抜け落ちた最たるものであり、すぐに身に付くものではありません。

卒業後は、多職種で組まれるリハビリテーションチームがHomeになります。Homeの感覚を研ぎ澄まし、「つながり」の重要性を理解できる能力を身に付けることは、臨床能力、作業療法の効果の最大化、円滑な多職種連携の根底をなすものとして、また現代社会を専門職業人として生き抜くために必要不可欠な能力です。

04 | Learning by Doing

学問の世界



くらしの場

作業療法学は**Learning by Doing** (することを通して学ぶ)の学問です。つまり、知恵を育む舞台は、わたしたちの身近な「くらし」の場にあると言えます。

しかし、リハビリの領域では、くらしを「日常生活活動」というむずかしい用語に置き換えられてきました。

身近にあるはずのくらしが、ある種の概念に変換され、一人称的な経験から遠ざかった感がありました。

その結果として、今でもクライアント(作業療法対象者)の思いを置き去りにした、OTファーストのセラピーが行われている場面を見かけることがあります。

本学科では、作業療法の「理論」と、くらしの「実践」が同居するべきと考え、双方を統合できる教育を目指しています。

学生は、授業で学んだ理論上の知識をくらしの中で実践します。すると、くらしの成り立ちや尊さを、自らの体験に引き付けて想像できるようになります(上図)。

その結果、感覚・感性が育ち、どうすれば幸せなくらしを実現できるかがわかるようになります。まさに、**Learning by Doing!**

この経験はクライアント中心の作業療法実践につながります。なぜなら、この過程は作業療法の追体験だからです。



Curriculum

カリキュラムのポイント

1 年次 ひとの心身とくらしを知り、関心を寄せることで人間性を高める

ひとの構造・機能、くらし・作業の成り立ちについて学び、OTとしての想像力・感性・倫理観を磨きます。

[科目例：解剖学・基礎作業学・作業療法概論・臨床実習Ⅰ]

2 年次 知識を活かす楽しさを知り、知恵を育む

疾病特有の障害像と生きづらさを理解し、くらしを再構築するための作業療法過程について、演習や実技を通して学びます。

[科目例：日常生活活動学・実践力演習Ⅱ・臨床実習Ⅱ]

3 年次 クリニカル・リーズニング(臨床推論)の経験を積み、臨床能力を高める

考案した治療内容やアイデアを教員や仲間と吟味し、合理的な治療へとブラッシュアップします。その経験を携えて臨床実習に参加することで、臨床能力を確かなものにします。

[科目例：義肢装具学演習・実践力演習Ⅲ・臨床実習Ⅲ・Ⅳ]

4 年次 知恵を駆使して実践力を高める

これまで培ってきた経験を踏まえて卒業研究に取り組み、4年間の学びを形にします。また、国家試験に向けた学習を本格化させ合格を目指します。

[科目例：卒業研究・地域作業療法学演習・臨床実習Ⅴ]



キャリア形成のイメージ

2024年時点でOTの求人数は多く、就職しやすい状況で推移しています。

OT業界は多くの女性が活躍しています。昨今、日本作業療法士協会は、女性の作業療法士の働き方やキャリア形成を支援するためのプロジェクトを始めました([かがやきプロジェクト 女性会員編](#))。

今後もライフステージに合わせて働き方を柔軟に選べる環境がますます整備されることが期待されます。

▶▶▶ Aさんのはたらき方(実例) | 作業療法士・二児の母



4年制大学を卒業後、OTとして就職
 職場結婚され、育休、職場復帰を経験
 お子さんの育児中は、准職員という立場で時短勤務
 職場には安価な託児所が併設され、安心して育児との両立ができた
 現在は、同職場でフルタイム勤務に復帰し、中堅OTとして活躍中

▶▶▶ Bさんのはたらき方(実例) | 作業療法士・妻子あり



4年制大学を卒業後、OTとして就職
 恩師の誘いで大学院への進学やキャリア・アップ転職を経験
 大学院に在学中は、職場の理解を得てフルタイム雇用を継続
 現在は所帯をもち、科長補佐として大学院での経験を職場に還元中

作業療法士を目指すみなさん・ご家族様へ

お読みいただきありがとうございました。

この読み物を通して、わたしたちの主に教育面の特徴を紹介させていただきました。しかし、まだまだ語りつくせないことがたくさんあることに気が付きました。ぜひオープンキャンパスにお越しください。教員や学生と交流していただきますと、他の養成校とは一味違う教育スタイルなどをご体感いただけたと思います。

作業療法士の仕事は、偏差値では測れない思いやりや共感性、感受性といった利他的な能力が多分に発揮されます。進学先を検討する際には、養成校の知名度、規模の大きさ(定員が多い)、都会の立地などが魅力的に感じられると思いますが、対人援助に必要なHartやHomeの感覚をどのように引き出し成長させるか、そうした教育的環境が整っているのかは、作業療法を学ぶ上でさらに重要な要素です。つまり、養成校の偏差値では見えてこない教育プログラムと環境の質に着目していただけると、進学先のミスマッチが起きにくいと思います。

あなたを本当の作業療法士にしてくれるのは、クライアント(作業療法の対象者)です。クライアントから信頼されるセラピストとは、どのような職業人なのかを想像してみてください。

少人数制のクラスで先生・仲間と対話し、複数用意された挑戦の機会に学習成果をアウトプットすることで、自信をつけたい、自分の考えを表現できるようになりたい、仲間の関心事に関心を寄せたい、社交的な自分になりたい、周囲のひとと協働して結果を喜び合いたい、その上で作業療法士としての専門知識と技能を身に付けたいと思う方は、わたしたちの教育プログラムを選択肢のひとつに入れていただけますと幸いです。

岐阜の地から作業療法を盛り上げくれる仲間が増えることを願っています。

岐阜保健大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

教員一同